



平成 18 年度 第 1 回 福祉サービス第三者評価研究会 議事要旨

開催要領

1. 開催日時：平成 18 年 6 月 6 日(火) 18:30～21:00
2. 開催場所：(株)地域計画連合 会議室

議事次第

1. 福祉サービス第三者評価研究会の位置づけ・あり方について
2. 研究会の中で学んでいきたいことの整理
3. 次回研究会テーマと進め方

配布資料

平成 18 年度 第 1 回 福祉サービス第三者評価研究会 議事次第



会議概要

1. 福祉サービス第三者評価研究会の位置づけ・あり方について

① 目的

【 議 論 】

- ・東京都福祉サービス第三者評価の目的の1つである「施設の質の向上」は含まれなくてもよいのか。
- ・手法の標準化も入るのではないか。
- ・視点をどこに置くかがポイントになる。それによって、この会社の評価者・評価の質向上のみ考えるのか、都の評価全体の質向上を視野に入れるのか決まってくる。都の評価全体とした場合、業者による評価の質のばらつき解消など、他機関との連携が必要になる。
- ・足元も固まっていないのに、全体に手を広げることができるだろうか。まずは自分たち。
- ・他の評価機関との差別化という点でスキルアップが主眼ではないか。
- ・都は、制度によって機関の競争も図るとしているが、競争とは何を意味するのだろうか。評価数か、売り上げか、それとも評価レポートの質か。それを客観的に判断するものがない。
- ・機関の競争は、施設側の求める評価を提供できるかということだろう。
- ・施設によって求める評価はいろいろ。評点の高い甘い評価を求めるところ、経営・サービス改善につながる厳しい評価を求めるところ。
- ・足元を固めつつ評価業界全体を視野に、ということであれば、例えば、研究会の成果をオープンにしつつ、自分たちは常に一歩先に行く、という考え方もある。ただし、成果のいいとこどりをされるリスクもある。
- ・将来の「評価機関連絡協議会」設立に向けた場と考えることもできる。
- ・どちらかという、自分の評価の仕方が客観的にどうなのかを学びたい。
- ・→内部向け： 当面内輪のメンバーのみ(関係者、友好的評価機関)、自己研鑽
→事業者向け： 評価受審側へ還元(評価例を紙媒体でお知らせ等)、リピータをつくる
→行政向け： 評価項目の見直し、提言

【 結 論 】

<当面の方針>

評価業界全体の底上げも視野に入れつつ、当面は内部及び信頼できる外部の方のみに参加して頂いて実施していく。



<研究会の機能>

- ・内部向け : 当面内輪のメンバーのみ(関係者、友好的な評価機関)、自己研鑽
- ・事業者向け : 評価受審側へ還元(評価例を紙媒体でお知らせ等)、リピータをつくる
- ・行政向け : 評価項目の見直し、提言

<研究会の目的>

福祉業界における利用者本位のサービス実現を目指し、評価者の自己研鑽、評価機関としての質向上、評価業界全体の学び合い・質向上の場とする。

② 参加者 弊社所属評価者 及び 関連の深い他機関の評価者

③ 開催日・場所

【日時】

年度前半: 毎月第2火曜 18:30~20:30

後半: 必要に応じて(評価が集中する。特に障害案件は10月~)

【場所】

弊社会議室(状況によって変更あり)

開催日	テーマ	進行役	備考
6月 6日	1. 福祉サービス第三者評価研究会の位置づけ・あり方 2. 研究会の中で学んでいきたいことの整理 3. 次回研究会テーマと進め方	喜多	
7月 11日		喜多	
8月 8日			
9月 12日			
10月 10日			
11月 14日			
12月 12日			
1月 9日			
2月 13日			
3月 13日			

④ 参加費 当面なし

⑤ 通知方法

【弊社所属評価者】 メールで毎月お知らせ

【その他の評価者】 DM(FAX)及び弊社HPで。(数回分まとめてお知らせ)

⑥ テーマ 「2. 研究会の中で学んでいきたいことの整理」 参照

⑦ 会の進め方

基本的に、「毎回、『次回研究会テーマと進め方』をご相談」とする。

【テーマ】 「2. 研究会の中で学んでいきたいこと」の整理結果を踏まえ、設定する。

【進行役】 当面事務局が担当。

研究会の活動が軌道に乗り次第、参加者がテーマに応じ、持ち回りで担当する。

2. 研究会の中で学んでいきたいことの整理

① 整理の方法

【手順1】参加者各自が、ふせんに「研究会で学んでいきたいこと」を記入(複数枚)

↓

【手順2】記入者の説明を順番に聞いて、模造紙の上に出してもらい、関連する内容ごとにまとめてタイトルをつけ、関係性を矢印で表現

② 整理結果

次ページを参照。なお、タイトルは下記の8つにまとめた。

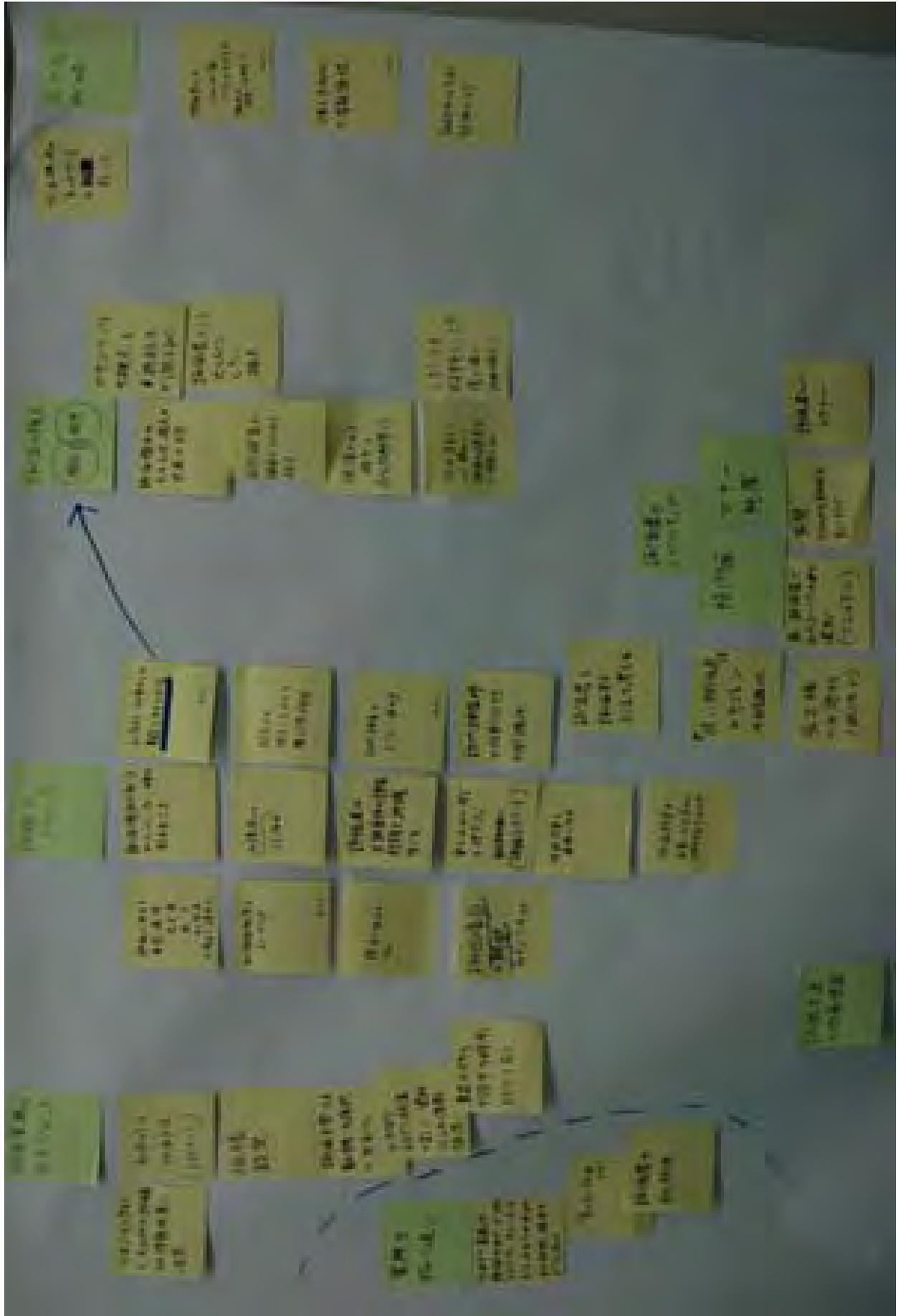
【内部的なもの】

- 業務のマネジメント
- 評価の視点
- 評価のノウハウ
- 業務の振り返り
- (→ 研究会の表のテーマとはしない)
- 評価者のレベルアップ(技術面/マナー)
- 評価手法の改善提案(業界全体)

【対外的なもの】

- 評価機関のネットワークのあり方
- マーケティング戦略





3. 次回研究会テーマと進め方

① 議論

【評価の視点】

- 例1：施設のビデオ、資料を参加者が見て、同じ材料をもとに各人がどう評価したか、何をA, A+にしたかを検証・共有する。
- 例2：他の評価機関のレポートを見て、その中での整合性などを検証・共有する。
- 例3：A+のたくさんついた報告書やそうでない報告書を見比べる。
- 例4：2社程度のレポートを見比べる。

【評価項目の解釈】

自己評価結果と評価結果報告書を見比べ、「長期計画を持っている」「人事評価制度」「研修制度」など、評価しにくい項目の解釈を検証・共有する。

【事前打ち合わせ】

事前打ち合わせのやり方を話し合う。

② 結論

1. 他機関のレポート全体を読み、視点ごと(経営といったレベル)に検証・共有
2. 「研究会で学んでいきたいこと」のテーマ出し(再度)

以上

福祉サービス第三者評価研究会 事務局

株式会社 地域計画連合 福祉サービス評価室

認証番号：機構 02-002

〒170 - 0004 東京都豊島区北大塚 1-19-12 大塚ゼネラルビル

TEL03-5974-2021 FAX03-5974-5770

窓口担当：中居 恵子 nakai@rpi-h.co.jp

